令和６年 12 月 11 日

福生市議会議長　武藤　政義　様

市民厚生委員会
委員長　小　林　　貢

令和６年度　福生市議会市民厚生委員会視察報告書

本委員会は、令和６年度行政視察を次のとおり実施しましたので、報告します。

１　視察日程：令和６年 10 月３日（木）～４日（金）

２　視察先及び目的

1.　愛知県小牧市（10 月３日）

（１）コマキッズドリームプロジェクト(ユメプレ)について

①　経緯及び概要について

②　現状と課題について

③　今後の取組について

（２）こまきこども未来館（少年少女発明クラブ）及び施設見学

（３）こまきこども未来大学について

2.　愛知県東海市（10 月４日）

（１）ひきこもり支援センターについて

①　経緯及び概要について

②　現状と課題について

③　今後の取組について

３　視察参加者名（７名）

委 員 長　小林　　貢
副委員長　小澤　芳輝
委　　員　西尾　壽々斗
委　　員　伊藤　広美
委　　員　佐藤　弘治
委　　員　青木　　健
随　　行　池田　裕佳（議会事務局係員）

４　愛知県小牧市応対者

こども未来部長　川尻氏
こども未来部次長　野田氏
こども政策課長　小川氏
こども政策課青少年育成係長　若林氏
こども未来部　他世代交流プラザ所長　村田氏
こども未来部　他世代交流プラザ事業推進係長　服部氏
こども未来部　他世代交流プラザ事業推進係主事　滝口氏
議会事務局議事課議事調査係長　舟橋　紀浩氏
特定非営利活動法人　こまき市民活動ネットワーク
　代表　関　哲雄氏

５　愛知県東海市応対者

議長　北川　明夫氏
議会事務局長　濵田　眞理子氏
市民福祉部長　植松　幹景氏
市民福祉部社会福祉課長　和田　真貴氏
市民福祉部社会福祉課統括主任　吉田　徹氏
市民福祉部社会福祉課主事　前田　蓮氏
議会事務局議事課主事補　市瀬　岳人氏

６ 各視察先報告

（１）愛知県小牧市（10 月３日）

①位置

②概要

小牧市は、名古屋市の北方約 15 キロメートル、濃尾平野のほぼ中心に位置し、市域面積は 62.81 平方キロメートルです。

昭和 30 年（1955 年）１月１日、小牧町、味岡村、篠岡村の３町村が合併し、人口約３万２千人、県下 21 番目の市として誕生。昭和 38 年（1963 年）には北里村と合併して、現在の市の規模となり、令和７年１月１日に市制施行 70 周年を迎えます。

昭和 34 年（1959 年）、当地方に未曾有の被害をもたらした伊勢湾台風による復興を契機に、農業依存からの転換と財政基盤の確立のため、積極的な工場誘致と大型団地の誘致を図ってきました。高度経済成長期に入ると、中部の空の玄関名古屋空港、さらには名神高速道路・東名高速道路・中央自動車道の３大ハイウェイの結節点という立地条件にも恵まれ「小牧菜どころ米どころ」といわれたかつての田園都市から、陸上交通要衝都市の性格を有する内陸工業都市へと大きく変貌し、中部の中核都市へと発展しました。

また、小牧市を大きく変貌させた事業の１つに桃花台ニュータウンの建設事業があります。桃花台ニュータウンは、愛知県を事業主体として、322 ヘクタールの新住宅市街地開発事業により開発が進められました。

さらに、平成 13 年には名古屋都心部と小牧インターチェンジを直結する名古屋高速道路高速 11 号小牧線が開通し、陸上交通要衝としての地位をさらに確固たるものとしました。

一方、春の桜、夏の深緑、秋の紅葉、そして冬の雪化粧と、四季折々にその姿を変え、市民に憩いと安らぎを与えてくれる本市のシンボル小牧山は、1563 年（永禄６年）天下統一を目指す織田信長がここに築城して戦国の風雲の中に登場しました。「本能寺の変」のあと天下の情勢は再び流動。次の覇者、豊臣秀吉が徳川家康と小牧山をめぐる攻防戦を展開した「小牧・長久手の合戦」で歴史にその名をとどめており、昭和２年には国の史跡指定を受けました。さらに、天下の珍祭で知られる田縣神社の豊年祭、ゴッホ、ピカソをはじめ、大観、劉生ら内外の高名な画家の作品収蔵で知られるメナード美術館など、当市は古い歴史と豊かな文化の街でもあります。

また、市内最大のイベント「小牧市民まつり」や真夏の夜を彩る「こまき令和夏まつり」は毎年盛り上がりをみせ、市民のふれあいの場となっています。

③人口：149,715 人（令和６年１月１日現在）

④面積：62.81 平方キロメートル

⑤議員数：25 人

⑥予算（令和６年度）

一般会計	624 億円
特別会計	286 億円
企業会計	396 億円
合　　計	1,306 億円

●小牧市（10 月３日）視察概要

①小牧市は、平成 27 年５月に「こども夢・チャレンジNo.1 都市宣言」を制定。

こどもが夢を描き、夢に向かって挑戦するまち。こどもの夢への挑戦を、市民みんなで応援するまち。として、現在、令和６年度から８年度の計画により、①コミュニケーションプログラム（ムービーやポスター等の PR 事業）、②アクションプログラム（コマキッズドリームプロジェクト及びパパ・ママサポートプロジェクト）、③アクションプログラム（小牧山）を策定し、各種事業に取組んでいる。

また、「こども夢・チャレンジNo.1 都市宣言」の理念を実現する施設として、多世代交流プラザである、こまきこども未来館（こどもの遊び場等併設）を整備した。

視察における説明会場は、再開発ビルの再構築により整備された、複合施設の２階であり、ワクティブこまき（こまきこども未来館、こまき市民交流テラス、ラピオ専門店街（ダイソーが入っている）等で構成されている。

ワクティブこまきは、市民の交流テラスであり、市民活動に加え、ボランティア活動、地域活動、生涯学習活動等の情報提供やそれぞれをつなぐ多機能型施設である。

特に印象的であったこども未来館は、こどもの成長をイメージした２階から４階にわたる巨大なシンボルツリー（ネット遊具）をはじめ、アスレチックやボルダリングなど、体を使って遊ぶ「遊びひろば」や、ワークショップを通して、ここでしか経験できない様々な体験ができる「体験ひろば」、未就学児の子どもとその保護者が安心して過ごせる「ニコニコひろば」、中高生をはじめ様々な年代が交流できる「交流ひろば」、親子や友達同士でゆっくり過ごせる「児遊ひろば」の５つのエリアで構成されており、市の中央児童館として、こどもの健康増進や情操を豊かにするだけでなく、「また来たくなる未来館～未来リテラシーを育む～」とい

うコンセプトを掲げ、学校や家庭では経験できない様々な遊びや体験を通してこども自身の学びにつなげ、これからの未来を力強く生き抜く力を育てる施設を目指している。

↓ 奥にネット遊具が見られる

内装等の整備費用は約 18 億円､その内約 10 億円が国庫補助等とのことであり、実質８億円程度の市負担となっている。

平成７年築の建物ではあるものの、既存施設の有効活用の好事例であると考えられる。

運営：小牧市　正規職員：５名　会計年度任用職員 22 名、年間利用者数実績は、令和５年度実績で約 31 万人となっている。

視察項目(1)コマキッズドリームプロジェクト「ユメプレ」について

「ユメプレ」は、夢にチャレンジする人や海外留学の希望者に対して、助成金や奨学金を支給する事業であり、自分の夢の実現にむけた挑戦についてプレゼンテーションを行い、審査によって助成金、奨学金という形で挑戦を応援する取組となっている。

事業は①夢にチャレンジ助成金、②夢にチャレンジ発表会、③大学生等海外留学助成金から構成されている。

①夢にチャレンジ助成金は令和５年度は１件で 265 千円であった。

令和６年度予算：1,978 千円。

対象者：15 歳以上 25 歳以下の高校生、大学生、社会人等及び市内在学の学生等。

上限：30 万円

【現状と課題】

本事業は平成 27 年度から開始した事業であり、事業開始当初は平成 27 年度５件、平成 28 年度５件の採択であったが、近年では、年１件の採択が続いている。
応募者が少ないため、応募者の増加を図る必要があるとしている。
また、この事業の内容について、広報やホームページ、SNS で周知するとともに、対象世代が集まる場所での公開による、活動実績報告会の開催や対象となる、子ども・若者の意見を聞くなど、より効果的な制度となるよう検討を進めていきたいとしている。

②夢チャレンジ発表会では、中学生自らの夢を語る発表の場を設け、将来高校生、大学生になったときに「夢にチャレンジ助成金」を活用し、夢の実現に向けてチャレンジしてもらう契機とすることを目的に実施されている。
「大学生等海外留学報奨金」は書類、面接などの審査を通過した応募者に奨学金を支給している。
留学結果については、終了後、実績報告会を行う。
令和６年度予算：490 万円
対象：15 歳以上 25 歳以下の高校生、大学生、社会人等。
助成額：12 か月を上限に、５万円限度。
令和５年度実績（申請・決定）：３件（大学生）
令和５年度奨学金支給実績：８件（高校生２名、大学生６名）

【現状と課題】
平成 27 年度から開始した事業であり、事業開始当初は申請が少なかったが、令和３年度に対象者・留学内容・所得要件を拡充したこともあり、令和３年度より申請数が増加した。
引き続き PR 活動を強化していきたいとしている。

③大学生等海外留学奨学金
書類、面接などの審査を通過した申請者に奨学金を支給。
奨学金を受けられる回数は、一人につき１回限り（月額上限５万円）。
奨学金の支給を受けた場合は、制度の周知を図るため、氏名等ホームページ等で公表。
留学中の状況は、市フェイスブック等で情報掲載。
留学結果は、終了後実績報告会を開催。

視察項目(2) こまきこども未来館（少年少女発明クラブ）
1974 年にスタートした事業です。

現在、全国 47 都道府県に 212 か所、約 11,000 名の子どもたちと約 2,800 名の指導員が活動している。

愛知県には 27 クラブある。

発明したい、工作したいと意欲をもったこどもたちがのびのびと自由に発想し、主体的に学びながら楽しんで活動するクラブである。

小学３年生から中学３年生の児童生徒を対象に募集し、半期で約 15 名程度が参加している。これまでの実績は、企業・個人サポーターの協力により、秘密基地の製作、耳が痛くならないメガネの開発を行った。

令和５年度実績：前期６回　参加者数 16 名、後期６回　参加者数 10 名。

視察項目(3)こまきこども未来大学について

現在、企業・大学・市民活動団体 38 名が登録している。

この事業は、特定非営利活動法人こまき市民活動ネットワークに業務委託して行われている。

令和５年度は、延べ 178 名のこどもたちが参加。

こまきこども未来大学は、小牧市の小学生に、自分のやってみたいことや夢を見つけてもらうため、企業や団体から、SDGｓや社会について様々なことを学ぶ講座で、対象は市内在住の少学４年生から６年生で、実施期間は夏休み期間となっている。

2022 年度に開講し、３年目となる 2024 年度の開催に当たっては、講座申し込みからの流れの中で企業側に伴奏支援も行っており、事前に課題の抽出を行ったうえで講座内容やタイトルの提案などを行い、事後アンケートも実施するなど、きめ細かい対応が行われている。

【所感】

「ユメプレ」では、夢チャレンジ助成金事業の、令和５年度の決定件数は１件であったが、こどもたちの夢の実現への助成事業として、少しずつ効果が出てくる事業として、こどもたちが前向きに挑戦できる良い事業であり、継続した事業が次第にこども達の夢がかなう取組になるものと考える。

また、夢チャレンジ発表会事業では、制度内容を拡充したことから、申請件数は増加したとの説明があり、事業を継続する中で、必要により制度内容を見直すことの必要性についても学んだ。

「こまきこども未来館（少年少女発明クラブ）」は、こども達が、発明したい、工作したいという意欲を積極的に受け入れた事業であり、自由で柔軟なこども達の発想を具現化する事業として、可能性を引き出す取組として参考となった。

「こまきこども未来大学」では、実際の現業職業人の講座によって、こどもたちがなりたい職業等の夢を見つけ出す、考えるきっかけづくり事業であるが、様々な職業の内容を知ることにより、様々に選択肢が広がり、なりたい自分を見つけ出すとても必要な事業であると感じた。

こどもが夢を描き、夢に向かって挑戦するまち。こどもの夢への挑戦を、市民みんなで応援するまちとして、未来を担うこども達に、様々な最善の体験等させることは、とても大事であり、有意義でると考える。

教育委員会や・学校、事業者等の協力により推進しているが、国の、こども基本法の制定から、こどもまんなか社会の実現に確実に取組んでいることが伺える事業として、大変参考となった。

福生市においても、こどもまんなか福生として、今回の行政視察を参考に、今後のこどもまんなか施策を考えて行きたい。

（２）愛知県東海市（10 月４日）

①位置

②概要

東海市は市域の北部に位置した上野町と、南部に位置した横須賀町が合併して、昭和 44 年(1969 年) ４月１日に誕生しました。

「東海市」という市の名前は、公募によって決められたもので、東海市・名南市・愛知市・知多市・平洲市の上位５市名から、「東海地方を代表するようなスケールの大きい名である。全国的によく知られ知名度が高い。中部圏の中心となるにふさわしい名称である」という理由で選ばれた。

東海市は、鉄鋼メーカーや化学メーカーなどの素材産業を始め、自動車関連の部品メーカー、加工メーカーなどの企業が集積し、ものづくり愛知を支える工業都市として発展してきている。

また、全国有数の「ふき」「洋ラン」の生産地でもある。

平成２年３月には、10 年先、20 年先を見据えて、市民が誇りに思うまちづくりを進めるとともに、次世代へ夢を引き継いでいくため、また、新たな創造をめざ

したまちづくりを進めていく決意を表明するため、「東海市都市宣言」を行う。東海市都市宣言は「ひとづくりと平和を愛するまち東海市」「子育てと結婚を応援するまち東海市」「生きがいがあり健康なまち東海市」「緑と洋ランにつつまれたまち東海市」「にぎわいあふれ個性輝くまち東海市」の５つの宣言から成り立っています。

平成 26 年度には、市民が幸せを実感でき、将来にわたって安心・安全で心豊かに暮らすことができるよう「ひと　夢　つなぐ　安心未来都市」を将来都市像とした第６次総合計画を策定。平成 27 年度には、日本福祉大学東海キャンパスの開校、公立西知多総合病院の開院、名鉄太田川駅東側に「東海市芸術劇場」を有する市街地再開発ビル「ユウナル東海」と大屋根を有するイベント広場、名鉄太田川駅西側に 50 メートルの歩道を有するイベント広場が完成するなど、「市民」、「地域・団体」、「行政」などのまちづくりの主体が目標を共有し、それぞれが果たすべき責任と役割を明確にしたうえで、共に手を携えながらまちづくりを進めている。

③人口：113,207 人（令和６年４月１日現在）

④面積：43.43 平方キロメートル

⑤議員数：22 人

⑥予算（令和６年度）

一般会計	591 億円
特別会計	142 億円
企業会計	143 億円
合　　計	876 億円

●東海市 ひきこもり支援センター視察概要

平成 18 年度に市社会福祉協議会に「ひきこもり相談窓口」を月１回設置（NPO 法人に相談員派遣を依頼）。

平成 19 年度、支援体制をさらに構築するため、市に「ひきこもり支援検討委員会」を設置し５回会議開催。

平成 20 年３月、「東海市ひきこもり施策基本指針」策定。

平成 21 年４月、法的・制度的根拠が存在しないが、取組が必要な社会問題として、ひきこもり支援センター「ほっとプラザ」を開設。

平成 21 年度から、東海市社会福祉協議会が実施主体となり、運営。補助率

10/10

令和２年 11 月、東海市ひきこもり施策基本指針改定

・ひきこもりの長期化・高齢化・8050 問題・就職氷河期世代の支援

・施策の位置付け➡生活困窮者支援施策

ひきこもり支援事業の拡充➡市が主体となって責任をもって実施

令和３年度、東海市ひきこもり支援事業コンソーシアムへの委託事業

・コンソーシアム構成員：東海市社会福祉協議会・NPO 法人オレンジの会

職員体制：社協職員３人、オレンジの会２人、学生アルバイト４人

事業内容：相談支援、居場所支援、家族支援、就労準備支援、学習・生活支援、広報・啓発事業

【現状と課題】

現状：来所実人数は令和２年度 54 人であったが、令和５年度は 108 人と２倍に増加し、一日平均利用者数は令和２年度は約３人であったが、令和５年度は約 11 人と３倍以上となってきている。

予算、平成 30 年度 24,976 千円（特定財源なし）

令和元年度 24,541 千円（特定財源 1,500 千円　生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 ひきこもりサポート事業　補助率 1/2）

令和６年度 35,939 千円（特定財源 20,164 千円　生活困窮者就労準備支援事業費等補助金　補助率 1/2、ひきこもり地域支援センター事業補助率 1/2、就労準備支援事業　補助率 2/3、学習・生活支援事業　補助率 1/2）

課題：「今は動きがないのでしばらく見守りましょう」など、硬直したひきこもり家族に対しての介入ノウハウが蓄積されていない。

家庭内での対立や不法行為、虐待、ネグレクト等が恒常的に存在し、家族関係が壊れている、機能不全家庭に効果的な支援がない。

ほっとプラザにつながることにより、果たして解決するのだろうか。相談者が「世の中とつながりたい」と思ってもらえるような支援を目指し、「支援メニューの充実」「広報の充実強化」「利用者ニーズへの柔軟な対応」が求められる。

今後の取組：令和６年度、「孤独・孤立対策プロジェクト」として、東海市総合福祉計画推進のためのプロジェクトチームにより、①どのような形で、こども・若者につながりたいのか　②義務教育終了後に途切れのない体制　③ほっとプラザでできているもの、できないものの検証を検

討して行く。

【所感】

今回訪問した、東海市ひきこもり支援センター「ほっとプラザ」は、農協の建物を再利用し整備されたものであり、ひきこもり支援センターの他に、図書館、研修センター、包括支援センター、障害者就労支援センター等が入っている。

また、不登校児童を支援する適応指導教室も設置されており、ほっとプラザと連携がとれている。

東海市で取組んでいるひきこもり支援センター「ほっとプラザ」での、年々相談者が増加している現状は、学校や社会になじめず、誰に相談していいかも分からないといったケースもあり、人間関係等を構築することの難しさを現しているような気がしてならなかった。

ひきこもり者等への支援の手をさしのべなければ、社会から遠のいてしまい、一層の孤独・孤立となってしまう。

相談が出来る場所、安心できる居場所があるというのは、とても心強いと思うところである。

誰一人、取り残さない行政課題は複雑化する中で、一人一人に対する支援が必要な時代となっている。

ひきこもり支援センター「ほっとプラザ」の設置内容等を伺い、問題・課題はあるものの、時代に即した取組として、とても参考となったところである。

今後の福生市の行政課題としての、ひきこもり者等福祉の向上の参考に活かしていきたい。